

自己評価

進路指導部教育目標	生徒一人一人が、自己肯定感と自信をもち、卒業後、地域社会の一員として、企業就労という形で主体的に社会参加し、地域に貢献できる生徒を育てる。
-----------	---

評価する領域・分野	進路指導	
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> 就労意識が不十分で学習等の活動に対し、主体的、意欲的になっていない。 進路指導に関する情報提供に関する項目で「わからない」との回答が18.5%もあり、保護者に分かりやすい形で進路に関する情報提供をしていく必要がある。 	
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 企業連携に基づく専門コースでの実践や、企業内実習等をとおして、勤労観・職業観を育成し、働く力を高める。 専門教科で身に付けた、知識・技能を生かすことができる職域を開拓し、就労につなげる。 進路指導に関する理解と協力を得るため、保護者への適切な進路に関する情報提供を行う。 	
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育の重要性を職員への徹底。 関係機関と連携した職場開拓。 進路に関わる情報共有会議の開催。 	
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> 専門コースに関連のある事業所等において、企業内実習の実施。 企業の人事担当者や高齢福祉施設職員を対象とした学校見学会を実施。 積極的な職場開拓を実施する。 専門コース等授業の在り方についての助言、指導。 	
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> 企業内実習における評価。(事業所側、自己評価) 保護者等を対象としたアンケートにおける回答。 生徒の進路意識の程度。 	
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> 専門コース関連業種の企業における企業内実習の実施。 第一期(週1回・金曜日、全42事業所)、第二期(3日連続、全39事業所) 高齢福祉施設、企業対象の学校見学会の実施。 関係機関との連携に基づく、就労支援コーディネーターを中心とした職場開拓。 	
評価の視点		評価
<ul style="list-style-type: none"> 生徒の勤労観や職業観を高めることにつなげることができたか。 当校の教育や障がい者に対する理解を深め、実習に協力事業所を拡大することができたか。 保護者や地域に対して、進路に関する情報提供が適切にできたか。 		<p>A (B) C D</p> <p>(A) B C D</p> <p>A B (C) D</p>
成果・課題		総合評価
<ul style="list-style-type: none"> ○企業内実習等を行う中で、就労に対する意識が向上し、また就労の厳しさを知り、適切な自己評価ができる生徒が増えた。 ○学校見学会等により、教育内容や生徒の実態を知っていただけ、理解を得ることのできる企業等が増えた。また、120を超える実習受け入れ可能事業所を開拓した。 ▲進路に関する情報提供については、進路通信の発行にとどまってしまう、十分な情報提供を行うことができなかった。 		A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> 軽度知的障がいの生徒を対象とした学校としてのキャリア教育の方針を再確認し、組織的に共通理解のもとに実践していく。 専門コースで学んだことをより生かせる実習先の職場開拓に一層力点を置く。 在学中から「障がい者就業・生活支援センター」等の関係機関との連携を図り、卒業後の就労へのスムーズな移行ができるようにする。 進路通信の発行だけでなく、保護者向けの進路ガイダンスや進路研修会等(他の特別支援学校の卒業生を招いた「先輩と語る会」等)を計画し、より分かりやすい情報提供を行うことで、進路指導に対する理解と協力を求める。 	

学校関係者評価 (平成30年3月7日実施)

意見・要望・評価等	<ul style="list-style-type: none"> 他の特別支援学校の企業就労している卒業生を招き、「先輩と語る会」のようなことを催し、より具体的に就労について考えられるとよい。(生徒、保護者、教員対象) 生徒や保護者が、卒業後の教員の支援体制や障がい者就業・生活支援センターの支援体制を知る機会を設け、在学中から支援体制づくりに取り組めるとよい。
-----------	---